

393

整然と身だてを乱れず、悄然として満歩いり、
姿は誰れか決意を以て瞻視せらる。立派な身
統の持ち主。どうに捕虜とせられ、情状色々
で未だ判然としないが、潜艦が一岸礁に乗り上
り、一名は戦死、今中尉は人知らずに陥った処を
捕へられたとも謂ふが、身は岸に上陸、萬歳と
絶叫しつつある。折、敵手に押へられ、付へら
れて真相は分らん、何れは倭姫の轉かれるであ
らうか、武運つたさうな勇士の心情を察するに
餘りある。僕は、昨の上下が彼に打たれた理解と
同情と共に、悄然として其の戦慄を讀へるだけの
雅量を示して貰ふ度い々と熱望にやまふ。

七月一日(水)

南戦以来既に満六ヶ月に経つた。リビヤ
方面は独軍將にエゲアの境と突撃、アレキサン
ドリア軍港も突かんとして、スエズの掌握は目算にあり
と云へ、中東戦域も亦セバストポール軍港陥
落、ヒトラー軍勢は地中海よりコーカス油田を目
かけ急襲に付へらる、太平洋に至っては、日本軍
は全く、之れを制覇し勢を盛んにする。米大陸
を侵すや数回に亘り、米口側の警戒は刻々に
迫つてゐる現下の情勢だ。今北緯側の積
極態勢は近き将来一大幅展開をして、蓋し
決戦的行動が見られるもの観測されるので、

394

これに對し聯合軍側は日下米口を中心、折衝
才ニ戦線によ、攻勢が盡んい呼ばれ、アイスランド
びアイスランド方面へ、米軍遠征の増強が企圖
されて居、自米二回に亘り、アイスランドへ米軍が帰
派されんと報せられてゐる。リビヤ戦線へも并米
軍が派遣されてゐるといふ、英軍と共に惨敗
した事は明かだ。

米口の人的資源の流動負と軍用品の豫定
達成が実現し得るものとせば、今次大戦は強ん
ど無期延宕的の長期と出現すると共に、人類世
界に及ぼす惨害は例を回復し、かゝる大不支
境と未すであらう。世界戦史上未だ嘗て見お、
廣範圍の戦域にかゝる、近代科学の一大
戦に於て、戦期の長びく連れ、漸く交戦は
は手段と擧げられ、成つて行くから、僕が豫
期する、五年十一月休戦がその可能性ありとすれば、
米口民の生活は茲數十年は、悲惨のどん底に陥
るものと覚悟すべきであらう。それによつて
米口民の生活は収容されて居る在米同胞に、更
に其家意識はよく、たゞ自らの立場のやと憂
慮し、世を、徒食に不平と常例といは課し
てゐる。

昨日到着した同胞中、は、ポルトランドの官商
某あり。又英陸軍世界新聞社の記者一名と初め
アムステルダムより、クリアランドより一名等のハマ

東南
人等
々々

$$0.7^2 \times 4 = 1.16$$

此等の諸君がテネシー・ビルに代表中其の代表
者として、ハワイ出身某氏に就きスペイン公使
よりの、交換船向合意せしむる回答により
来る八月十日頃、所搭金三百弗、荷物32 Cubic
に制限されて旨述べておる。即ち交換人質
の取捨は、昨政府とをりしこと、の由である。以下
右のリスト作製は、数名の政府関係者に対し
乗船優先権を与へる意味のほかならぬと
推測される。

僕は入院した、暫く食事に拘束されて居るが、
1週間、既に田中博士の指示通り、このバウ
クを去る予定だったから、1週間、
取止めの1週間。周知及び坪井内
は去る廿七日入院した。

酷暑地へかゝるものあり、全く閉口の至リ也。
寒さには相当地へ得る勝負にかゝるんが暑熱
は少しも暑着たらざるを得ない、暑初ぬ日は
負血を起し、腐々目まじか来て歩行が危むまじ
るやうなつたが、昨今はこれには世をなつた。
ところが暑初ぬ日米帝例のやうに、一日一回は
きつと夕立がらつて、いそよかの冷氣を呼んで
来れるのは、要に天来の慈雨と云つてよい。

此処の夕立は、熱帯地帯に比較的近いだけに、
実に痛快だ。一天の晴雲が蟠り空を捲き

かと思ふ。一陣の疾風が吹くと吹き靡いて
 今までの暑熱は一時に拂拭されて了ふ。驟て沛
 然たる猛雨が、バフッとも破れよとはかり降り注
 ぐ。いはゆる車軸を覆へすの形を河通りながら
 愉快である。南洋のスクラムとは、之れの大さや
 奴でらう。だがこの夕立が来ると雨漏りか
 僕へのベドは数人ばかり移動させやせやせらん。
 夕立は毎日来い、空突いて来い、遠慮な来い。

七月二日(木)

坂巻中尉は食事に限りから、柵や食堂にて攝
 3年になつて、其の都度第一食堂へ来ると云ふ。
 乃ち今朝僕は心待ちに、その柵を覗はんものと
 外側通路を注視してゐると午前七時少し前
 に一名のカーツに衛せられ、うつ向き勝手に突然
 とやつて来た。近廻りに第一食堂前にりつて、
 同に夫や車野を覗き見て居ると、柵門迄来ると
 衛兵の姿や、あつた向つてゐると驟て、門衛
 が何処からか現れ、柵門を開け、や中尉はが
 と共に直入り食堂内へ其姿を消した。中尉の
 筋肉よくまゝ若い、青年士官の、悠揚知らぬ
 態度であるが、顔色は悪い。武運つたふかつた
 彼に取つては憂鬱やらざるを得ない。僕は彼
 の士官の姿と見、度々不覚の涙に暮れる。毅然
 たる覚悟を以て、明日後取のべき途を軽ん後ら